

JAMA NEWS NO. 54

The Japanese Association of Management Accounting

日本管理会計学会 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター (株)国際文献社内 日本管理会計学会事務局

会長就任のご挨拶

会長 崎 章浩 (明治大学)

昨年8月、明治大学で開催された年次全国大会において多くの会員の先生方からご支援を賜り、会長に選出されました。2023年4月から3年間、社会への貢献、学会の発展、ならびに会員の先生方の研究活動の充実のために最大限の努力をする所存です。

2019年に発生し世界中に蔓延した新型コロナウイルス感染症により、本学会も多大な影響を受けました。2020年度年次全国大会は対面形式で開催されましたが、懇親会がなく、また2021年度年次全国大会はオンライン形式で開催せざるをえませんでした。感染症が少し落ち着いた昨年の年次全国大会は対面形式で開催されましたが、懇親会は催されませんでした。また、常務理事会、理事会等もオンライン形式での開催を余儀なくされました。

しかしながら、今年に入り感染症の拡大もかなり収まり、4月15日(土)に明治大学で開催された常務理事会、理事会、フォーラムは対面形式で開催され、懇親会を催すことができました。5月5日(金)には、世界保健機関(WHO)のテドロス事務局長が新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言を終了すると発表し、わが国においても、感染症法における新型インフルエンザ等感染症には該当しないものとし、5月8日(月)以降は、5類感染症とすることが決まりました。したがって、今後の学会活動はコロナ禍前のかたちで実施できると期待しています。

さて、上記の4月15日に開催された第1回常務理事会、理事会において今後の3年間における私の短期、中期の目標を述べさせていただきます。

短期目標の一つ目は、管理会計の理論と実務の幅広い普及と定着を目指し、(一社)日本記念日協会に「管理会計の日」を登録するために、適切な日を検討申請することです。これは創立30周年記念事業として計画されていたことですが、諸般の事情で実現されてこなかったもので、提案者である水野一郎氏(関西大学教授)を委員長に委員会を設置し、本年度中に登録したいと考えています。それと同時に、会員を始め、多くの方々に本学会に親しみを持っていただくために学会のロゴマークを作成したいと考えています。

二つ目は、規程の改正です。コロナ禍を契機に、昨年の会長、常務理事、および理事の選挙から電子投票システムによる方法に投票方法を変更してきましたが、それに伴う「会則」「役員選任規程」等の規程の一部に不備がみられます。そこで、本年度中に必要な改正を行いたいと考えています。改正案が纏まりましたら、常務理事会、理事会、総会に諮りたいと考えていますので、よろしくお願いたします。

三つ目は、4月から新執行部で検討してきたことで

が、学会の業務に携わっていただいている参事の先生方への学会出張費等の一部助成などを通じた研究活動支援です。議事録の作成等のために常務理事会、理事会に出席していただいている参事の先生方は若手の研究者であり、貴重な研究時間を割いて出席していただき議事録を作成していただいていますので、それにたいして何らかのかたちで応えたいと思います。

次に、中期目標について一つ目は、社会への貢献、地域経済の発展への貢献です。これは「会則」第3条の目的の一つに「経営管理実務の指導・改善に資することを目的とする」と掲げていることであり、ぜひ実現したいと考えています。たとえば、2018年度から隔年で実施されている「産学共同研究」を活用して、地域の商工会などの非営利団体や、人材が不足している中小企業の方々と産学連携の道を探り支援することが考えられます。今年の年次全国大会の統一論題において「中小企業管理会計の現状と課題」をテーマに掲げていただき、中小企業のことを議論していただくことになっています。また、地域の商工会との連携についても一部で話しが進んでいます。

二つ目は、会員数の増大です。今後、研究者の会員数の増大はあまり見込めないと考えられます。そこで、企業にお勤めの方々、および中小企業との関係が深い税理士や公認会計士の方々の会員数の増大を図りたいと考えています。とくに、上記の「産学共同研究」などを活用して産学連携を図るためにも、中小企業の方々との関連がある税理士、公認会計士の先生方に会員になっていただくことは意味があるかと存じます。税理士を始めとする実務家の方々に会員になっていただくには、どのようなことが考えられるかを任期中に探っていきたいと思えます。併せて、賛助会員を増大することにより財政基盤を拡充したいと考えています。

三つ目は、機関誌『管理会計学』についてです。歴代の編集委員長のご尽力により機関誌『管理会計学』は質量ともに大変充実してきましたが、編集委員長を始め、編集副委員長、委員、参事の先生方の業務がかなり負担になっていると聞いています。そこで、これまでの委員長、副委員長、委員、参事の先生方のご意見を伺い、業務の一部を外注することなどを含めて、編集手続きについて改善したいと考えています。

これらの中期目標については、私の任期の間に実現できるとは考えていません。今後の執行部に繋がるような仕組みを作ればと考えていますので、ご高配のほどよろしくお願いたします。

2021年に学会創設30周年を迎えましたが、次の節目である40周年に向けて社会に開かれた、より魅力ある素晴

らしい学会へと発展するよう、微力を尽くして取り組む所存です。会員の先生方の一層のご支援、ご協力を賜り

ますよう心からお願い申し上げます。

新役員決定

▼ 副会長 4 名決定

2023 年 4 月 15 日に開催された「理事会」での審議の結果、4 名の副会長が選任されました。

▼ 常務理事 24 名決定

2022 年 11 月 25 日午前 10 時から 11 月 28 日午前 10 時までの期間において、電子投票システムによる電子投票による常務理事の選挙の結果、14 名が常務理事に選任されました。なお、前執行部の会長・副会長 5 名については役員選任規程第 8 条により常務理事に選任されることになっています。

また、2023 年 4 月 15 日に開催された「理事会」で役員

選任規程第 9 条 b により常務理事 5 名が選任されました（参照：新役員一覧の*印）。

▼ 理事 10 名追加決定

2023 年 4 月 15 日に開催された「理事会」での審議の結果、役員選任規程第 9 条 a により選任される理事として 10 名が選任されました（参照：新役員一覧の*印）。

▼ 参事 7 名決定

2023 年 4 月 15 日に開催された「常務理事会」での審議の結果 7 名の参事が選任されました。

新役員一覧

(敬称略, 任期: 2023 年 4 月 1 日~2026 年 3 月 31 日)

■ 会長

崎 章浩 明治大学

■ 副会長

伊藤 克容 成蹊大学
内山 哲彦 青山学院大学
島 吉伸 近畿大学
宮地 晃輔 長崎県立大学

■ 常務理事

青木 章通 専修大学
伊藤 和憲 専修大学
大沼 宏 中央大学
奥 倫陽 東京国際大学
片岡 洋人 明治大学
河合 隆治 同志社大学
川島 和浩 東北工業大学*※
木村 麻子 関西大学
窪田 祐一 南山大学
澤邊 紀生 京都大学
椎葉 淳 大阪大学
杉山 善浩 甲南大学*※
田坂 公 福岡大学
谷守 正行 専修大学
中川 優 同志社大学
中村 博之 横浜国立大学
丹羽 修二 株式会社日本経営*※
浜田 和樹 岡山商科大学

平井 裕久 神奈川大学
前田 陽 明治大学
三浦 勝 日本メックス株式会社*※
安酸 建二 近畿大学
渡邊 章好 東京経済大学
渡辺 岳夫 中央大学*※

■ 理事

新井 康平 大阪公立大学
飯島 康道 愛知学院大学
伊藤 嘉博 早稲田大学
井上 裕史 経営科学研究所
今井 範行 名古屋国際工科専門職大学院大学*※
岩田 悦之 ZECOOPार्टナーズ株式会社*※
庵谷 治男 東洋大学
梶原 武久 神戸大学
金田 直之 学習院大学
小酒井 正和 玉川大学
小菅 正伸 関西学院大学*※
後藤 勇輝 税理士法人タックスウェイズ
近藤 隆史 京都産業大学
坂口 順也 名古屋大学
佐々木 郁子 東北学院大学
清水 信匡 早稲田大学

関谷 浩行 北海学園大学
園田 智昭 慶應義塾大学
中井 誠司 国士舘大学
柗 紫乃 愛知工業大学
藤野 雅史 日本大学
細海 昌一郎 東京都立大学*※
松木 智子 帝塚山大学
丸田 起大 九州大学*※
味水 佑毅 流通経済大学
水野 一郎 関西大学
三矢 裕 神戸大学
森口 毅彦 富山大学
吉村 聡 流通経済大学

■ 監事

新江 孝 日本大学
長屋 信義 産業能率大学
門田 隆太郎 やまなみ監査法人

■ 参事

浅石 梨沙 西武文理大学
飯塚 隼光 京都大学
梅田 充 金沢星稷大学
北田 智久 近畿大学
佐藤 正隆 武蔵野大学
原 慎之介 名古屋外国語大学
宮川 宏 専修大学

役員業務分担

業務内容	委員長(責任者)	メンバー
フォーラム	島 吉伸	副委員長：窪田 祐一 委員：梶原 武久, 近藤 隆史, 渡辺 岳夫 参事：北田 智久
企業研究・工場見学	宮地 晃輔	副委員長：丹羽 修二 委員：飯島 康道, 川島 和浩, 関谷 浩行, 谷守 正行 参事：梅田 充
リサーチセミナー	島 吉伸	副委員長：安酸 建二 委員：河合 隆治, 佐々木 郁子, 杉山 善浩, 渡邊 章好 参事：北田 智久
地方部会	宮地 晃輔	副委員長：木村 麻子 委員：新井 康平, 柊 紫乃 参事：梅田 充
内外学会コラボレーション	島 吉伸	副委員長：片岡 洋人 委員：青木 章通, 浜田 和樹 参事：北田 智久
実務家交流	丹羽 修二	副委員長：三浦 勝, 水野 一郎 委員：岩田 悦之
学会誌編集	園田 智昭	副委員長：田坂 公 委員：庵谷 治男, 谷守 正行, 中川 優, 平井 裕久 参事：浅石 梨沙, 佐藤 正隆
学会賞審査	澤邊 紀生	内山 哲彦, 崎 章浩, 園田 智昭, 浜田 和樹, 松木 智子, 丸田 起大
経営関連学会協議会・日本経済学会連合(評議員)		経営関連学会協議会(評議員)：細海 昌一郎, 大沼 宏 日本経済学会連合(評議員)：谷守 正行, 前田 陽
管理会計の日の設置等	水野 一郎	副委員長：小酒井 正和 委員：奥 倫陽
総務・広報 (JAMA NEWS・HP 等)	内山 哲彦	委員：奥 倫陽 参事：原 慎之介
会員・寄付・募金	伊藤 和憲	委員：森口 毅彦 参事：宮川 宏
予算・決算	伊藤 克容	参事：飯塚 隼光
庶務	崎 章浩	委員：奥 倫陽 参事：宮川 宏

各種業務計画

フォーラム

近畿大学 島 吉伸

今年度のフォーラムは、年 3 回の開催を予定しています。フォーラムは実務家の知見と学術研究の交流を目的として、実務家の基調講演と研究者の報告、会場参加者とのディスカッションを中心に実施いたします。開催予定は次のとおりです。

- ・第 1 回 2023 年 4 月 15 日(土) 明治大学 開催済み
- ・第 2 回 2023 年 7 月 29 日(土) 愛知学院大学 対面での開催
- ・第 3 回 2023 年 11 月 25 日(土) 鹿児島国際大学 九州部会との共催

開催委員長と相談の上でフォーラムのテーマを決定し、報告者を選定したいと考えております。実務家との貴重な交流の場となるよう準備いたしますので、会員皆様の積極的な参加をお願いいたします。

企業研究・工場見学

長崎県立大学 宮地 晃輔

2023 年度の企業研究・工場見学につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う行動制限がほぼ解消される見通しとなり、年 2 回の開催を目指して準備を進めさせて頂く予定です。

通常は、第 1 回を 8 月上旬に実施させて頂いておりますが、行動制限がほぼ解消されたとはいえ、企業・工場見学の受入れを復活する企業が現時点でどの程度あるか未知数なところもございます。今後、第 1 回の開催に向けて会員の皆さまに魅力ある見学先企業・工場の確保に努めていく所存であります。

第 2 回目は、2024 年 3 月頃を予定しております。第 1 回目および第 2 回目ともに見学先企業・工場の受入先を、企業研究・工場見学の副委員長、委員、参事の先生方とご相談しながら決定していきたいと考えております。会

員の皆さまから企業・工場見学を受入れて頂ける企業の情報などがございましたらご提供をお願いいたします。

企業研究・工場見学は、企業を訪問して工場見学等を実施し、その企業に勤務している実務家の方にご講演をお願いしております。開催頻度は、年に2回で、フォーラムや地方部会の前日等に行われることもあります。さらに、実務家と研究者が共同研究を行い、学会報告を行うことも目標に掲げたいと考えております。

受入企業の業務上の都合もあります関係で、開催時期が流動する可能性もありますが、年2回の開催を確保していく予定でございます。

企業研究・工場見学の開催については、メーリングリストにより連絡させていただく他に、HPでも開催案内を掲示させていただきます。会員の皆さまの積極的なご参加をお願いいたします。

リサーチセミナー

近畿大学 島 吉伸

今年度のリサーチセミナーは、年2回の開催を予定しています。リサーチセミナーは、若手研究者の研究水準向上を目的とし、若手研究者による報告とディスカッションからのコメント、会場参加者とのディスカッションを中心に実施いたします。開催予定は次のとおりです。

- ・第1回 2023年6月24日(土) 近畿大学東大阪キャンパス 対面での開催
- ・第2回 開催日・場所は未定 日本原価計算研究会との共催

若手の研究報告が中心ですので、学会報告よりもリラックスした雰囲気を実施したいと考えております。また、特定のテーマに基づいた報告を募集することも考えております。会員皆様の積極的な参加をお願いいたします。

地方部会

長崎県立大学 宮地 晃輔

日本管理会計学会では、地方部会として関西・中部部会と九州部会が設置されています。地方部会の最大行事である部会大会では、全国に分散する会員の皆さまに研究報告の場を身近にご提供しております。部会の開催方法としまして対面とオンラインのハイブリッド方式での開催されるケースも増えており、遠隔地からも参加がしやすい部会運営をご提供頂いております。

部会大会には、新会員の獲得など、学会の足腰を強くする役割もあります。部会大会では実務家のご講演が設定されることも多く研究者と実務家の交流機会の確保、実務家会員の獲得、さらに、日本公認会計士協会の地方会員にCPEの機会をご提供するなど、部会大会を広く開放することにより、コミュニティへの貢献の強化を進めてまいります。

現時点での2023年度開催予定は、以下の通りです。

- 関西・中部大会 年2回
 - ・第1回合同部会 2023年5月27日(土) 13時30分～16時40分 広島国際大学(委員長・景山愛子氏) 対面とオンラインのハイブリッド方式
 - ・第2回合同部会 2023年11月開催予定 甲南大学(予定)
- 九州部会 年2回
 - ・第1回部会 2023年5月20日(土) 13:50～16:30 下関市立大学(委員長・足立俊輔氏)

対面とオンラインのハイブリッド方式

- ・第2回部会 2023年11月25日(土) 鹿児島国際大学(委員長・福田正彦氏) 第3回フォーラムと共催

内外学会コラボレーション

近畿大学 島 吉伸

昨年度までと同様に、学会相互の発展を目的として、日本原価計算研究会、日本組織会計学会、アジア太平洋管理会計学会、牧誠財団、CIMAなどとのコラボレーションを進めたいと考えています。今年度の11月には、日本原価計算研究会との共催でリサーチセミナーを開催する予定です。また、CIMAとの協力内容の具体化を進めていきたいと考えています。

実務家交流

株式会社日本経営 丹羽 修二

前期において実務家交流の委員長を拝命いただきながらほとんど活動出来ておらず大変申し訳なく、貢献できていないことを大きく反省しております。

新事業年度においては、崎章浩会長の方針のもと実務家の会員増加を積極的に取り組んでまいります。実務家の会員増加により研究者の方々との交流を活発にし、管理会計の発展と実務における活用の促進に貢献してまいります。

具体的な活動計画は委員会の先生方と打ち合わせさせていただきたいと思いますが、実務家の方に管理会計学会の魅力を感じていただける啓蒙活動に取り組みます。また、入会いただいた実務家の方が管理会計学会において研究活動とビジネスの相乗効果を実感いただける交流活動に取り組んでまいります。

委員会そして会員の皆さまと密なご相談をさせていただき、一つ一つの活動を丁寧に積み上げて成果につなげてまいります。

皆さまのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

学会誌編集

慶應義塾大学 園田 智昭

学会誌である『管理会計学』は年2回発行し、第1号には投稿論文を、第2号には主に統一論題報告者に対する依頼論文を掲載しています。『管理会計学』の編集委員長として、査読のプロセスを適切に実施することで学会誌としてのクオリティを保ちつつ、なるべく多くの多様な論文を掲載したいと考えています。また、編集委員会の運営体制についても見直しを行い、特定の個人に負担が集中することがなく、学会の中心的な成果物である学会誌を学会員全員で支える体制にするつもりです。

学会賞審査

京都大学 澤邊 紀生

学会賞は、本学会が管理会計学およびその隣接諸学に関する理論または応用について、学問的または技術的に貢献するところが大きいと認められた者を顕彰し、学会および学術の発展をはかることを目的としています。学会賞は、特別賞、功績賞、論文賞、文献賞、奨励賞の5種類があり、特別賞は多年にわたり特に優れた研究業績や教育業績があると認められた方または本学会の運営について特に顕著な功績があったと認められた方、功績賞は本学会の大会および研究会等での報告や執筆で顕著な貢献があるとともに学会活動に顕著な貢献があったと認められた方、論文

賞は管理会計学およびその隣接諸学に関する理論または応用の発展に貢献するところが顕著であると認められた論文を執筆された方、文献賞は管理会計学およびその隣接諸学に関する理論または応用の分野の発展に貢献するところが顕著であると認められた論文以外の著書等の著者の方に授与されます。奨励賞は若手研究者の研究を奨励するため、40歳以下の方を対象に授与されることになっています。学会賞の授与は、学会賞審査委員会が提案する議案を常務理事会の議を経て決定されます。受賞候補者は、自薦または他薦に基づいて決定されます。会員の皆様には自薦または他薦について、より一層のご協力をよろしくお願いいたします。

管理会計の日の設置等

関西大学 水野一郎

「会計がわからなくて経営ができるか!」と喝破したのが稲盛和夫京セラ創業者であるが、この会計とは「経営のための会計学」であり、管理会計である。

会計不正、粉飾会計が増加傾向にあり、経営者、管理会計担当者の会計倫理と厳正な管理会計が重要となっている。また中堅、中小企業の倒産も増えてきており、健全な経営に資する適切な中小企業の管理会計の理論と技法の確立が要請されている。このような要請に応え、「管理会計の日」を設定し、管理会計の意義と重要性を広く紹介し、その理論と実務、技法の幅広い普及と定着を図ることは、本学会の社会的使命だと考えられる。

「管理会計の日」の設定については、学会創設30周年事業でも取り上げられてきた課題である。「管理会計の日」の候補は、管理会計の先駆者とも考えられる渋沢栄一に関係する日を検討しており、本年度中に是非実現させたいと考えている。更に学会のロゴマークも新たに検討し、会員証バッジの作成などを含めて、学会の一層の認知度を高め、管理会計学の発展に貢献したい。

総務・広報

青山学院大学 内山 哲彦

総務活動は、主に学会の運営に係わることで、会員原簿の管理や会費の請求などの会員管理業務のほか、常務理事会・理事会等の議題の確定などの業務があります。会員管理業務については国際文献社に業務委託しており、同社と連携して業務を行ってまいります。日常的な業務については、各種委員会の皆様のご協力を得ながら、円滑に運営していきたいと考えています。現執行部では、すでに学会誌編集委員会の業務について課題を共有しており、総務・広報を担当する私が引き続き学会誌編集委員も兼務しているため、同委員会と連携しながら検討を進めていきたいと思っています。また、参事の先生方へのサポートや、お願いする業務についても検討していく予定です。

広報活動には、メーリングリストによる各種研究会（年次全国大会、フォーラム、リサーチセミナー、地方部会、企業研究会）の案内、学会全般に係わる規程改定などの連絡のほか、ホームページのメンテナンスやJAMA NEWSの発行があります。また、学会内外からのさまざまな問い合わせへの回答もあります。これらについても、国際文献社と連携しながらタイムリーに情報提供や対応ができればと考えています。

ご意見・ご要望は学会事務局宛にご一報ください。会員のご要望にお応えできるよう、学会事務局と連携して学会を運営していきたいと思っております。ご協力のほど宜しくお願いいたします。

会員・寄付・募金

専修大学 伊藤 和憲

最近の会員の状況を会員総会時で振り返ってみますと、2017年度709名、2019年度712名、2022年度691名です。この3年で21名の会員が減少したことがわかります。それぞれの正会員は621、621、611となり、10名の正会員減少でした。準会員は76名、66名、61名で、ここでも2017年度比で10名減少しています。賛助会員は8社、10社、8社でほぼ安定しています。特別会員は、4名、8名、11名と少しずつ増加しています。これまでの3年間はコロナの影響で正会員が20名も減少してしまったと考えられます。退職による退会者は毎年あり、準会員から正会員への種別変更だけでは賄えなくなっています。正会員の増加のためには、実務家会員が期待できます。たとえば、実務との連携を強化し、実務家に学会誌への事例論文を求めるなど、実務家へアピールしていく必要があります。もう一つの会員増加は準会員の増加です。準会員に入会していただくためには、発表の機会を若手研究者に十分提供することです。たとえば、フォーラム、リサーチセミナー、内外コラボレーションなどを活用していただけるよう案内をする必要があります。併せて、それらの担当者との協力を仰ぎながら、会員確保に結びつく環境整備に務めて行こうと思います。

予算・決算

成蹊大学 伊藤 克容

このたび、当学会の予算・決算業務を担当することとなりました。予算については、学会の円滑な運営を反映するべく、執行部内で協議して作成した業務計画に基づき適正な予算を策定したいと考えております。決算については、監事の諸先生方に御指導頂き、会員各位に御認め頂ける決算報告となるよう作成いたします。学会発展に向け、様々な事業拡大を適切に支援しつつ、同時に、安定した運営基盤を維持できるよう微力を尽くします。

2022年度年次全国大会記

明治大学 長野 史麻

日本管理会計学会2022年度年次全国大会（準備委員長：明治大学 崎 章浩氏）が、2022年8月29日（月）から31日（水）までの3日間にわたって、明治大学駿河台キャンパスにて開催された。1年ぶりの対面形式での開催となり、236名の参加者の活発な交流が図られた。コロナの感染状況が収束しないため、懇親会の開催が断念されるという影響はあったものの、会員の交流や研究への刺激という点において有意義な大会となった。ここでは、大会の様子の一部を紹介する。なお、26日0:00から31日正午までオンラインにて会長選挙および理事選挙が行われた。

■大会1日目

28日は、常務理事会、理事会および各種委員会が開催された。

■大会2日目

29日は、午前6会場に計24の自由論題報告が行われ、午後は会員総会、特別講演、スタディ・グループ中間報告、産学共同研究グループ中間報告、統一論題報告が行われた。

昼食後に行われた会員総会では、大会実行委員長挨拶、会長挨拶のあと、昨年度の事業報告、決算、監査報告、今年度の事業計画ならびに予算について、審議・承認された。そして、2023年度年次全国大会が2023年8月28日（月）から30日（水）まで、東北工業大学八木山キャンパス（準備委員長：川島和浩氏）で開催されることのほか、会員の異動、学会誌『管理会計学』の発行状況、スタディ・グループ、産学共同研究グループについて報告がなされた。最後に学会賞審査報告並びに表彰式が行われた。受賞者は以下の通りである。

【学会賞】

・特別賞：
該当者なし

・功績賞：
井岡大度氏（国土館大学）、長谷川泰隆氏（麗澤大学）

・論文賞：
窪田祐一氏（南山大学）・劉美玲氏（鹿児島大学・神戸大学）・三矢裕氏（神戸大学）
「イノベーション戦略とマネジメント・コントロールの有効性—両利き経営のための示唆」『管理会計学』30巻1号、2022年、pp. 3-20.

柘紫乃氏（愛知工業大学）・上總康行氏（京都大学名誉教授）

「現場改善効果の類型化—会計的視点からの考察—」『管理会計学』30巻1号、2022年、pp. 123-140.

・文献賞：
山口朋泰氏（中央大学）『日本企業の利益マネジメント：実体的裁量行動の実証分析』中央経済社。

・奨励賞：
該当者なし

その後の特別講演では、水野一郎氏（関西大学）の司会のもと、公益財団 渋沢栄一記念財団 常務執行理事、渋沢史料館 顧問の井上潤氏が「“論語と算盤”に学ぶ 渋沢栄一の事業・経営理念」というテーマで講演された。井上氏は、渋沢栄一91年の生涯を整理されたうえで、いま、あらためて注目される渋沢栄一について、企業倫理を実践し、儒教精神を貫き、社会貢献事業を先き駆け、リーダーシップを発揮し、高齢社会の模範であったその人物像を紹介された。その後、「論語算盤説」と「道徳経済合一説」からみえる渋沢栄一の経営哲学について取り上げ、単なる実業家ではなく、「近代化のオルガナイザー」であり「交易の追求者」であると締めくくられた。最後に司会の水野氏がまとめ、特別講演が終了した。

特別講演後、スタディ・グループ中間報告「多様化するマネジメント・コントロールの現状整理と展望」（研究代表者 慶應義塾大学 横田絵理氏）ならびに産学共同研究グループ中間報告「サブスクリプションビジネスのモデル化とその評価に関する研究」（研究代表者 専修大学 青木章通氏）が行われた。

大会2日目の最後に、統一論題報告が行われた。統一論題テーマは「わが国におけるコスト・マネジメントの現状と課題」であった。まず、座長の田坂 公氏（福岡大学）から解題がなされた。田坂氏からは、①立ち止まって、わが国のコスト・マネジメント研究の全体を見渡すことにより、その現状を評価し、将来を展望すること、②管理会計研究者コミュニティとして、現状や将来展望を共有すること、③研究者の視点だけでなく、実務家の視点を取り込みながら討論することを統一論題のねらいとし、伝統的なコスト・マネジメントの枠組みから一歩踏み出して討論していくことが提起された。

つづく第一報告として、今井範行氏（名古屋国際工科専門職大学）から「トヨタのコスト・マネジメントと今後の課題」として、トヨタのコスト・マネジメントの全貌が詳しく説明されたのち、コスト・マネジメントの今後の課題として、①海外原価企画の体制構築とその充実化、②クルマのエレクトロニクス化・ソフトウェア化・EV化への対応、③組織改革への対応、④モノのサービス化への対応、⑤デジタル化（バーチャル化）への対応が取り上げられ、解決に向けた提言がなされた。

第二報告は、柘紫乃氏（愛知工業大学）による「現場改善会計論の提唱：原価管理から余剰生産能力管理へ」であった。柘氏は、コスト・マネジメントに関わる現場改善の改善効果の問題点を指摘され、現場改善会計論を提唱された。現場改善会計論によれば、改善効果の見える化が図られ、余剰生産能力管理が可能になるという。コスト・マネジメントの視点を、投入・費消された原価というインプット管理から、改善により創り出された余剰生産能力というアウトプット管理へと変えることが提案された。そして今後は、実務における実践・検証を通じ、さらなる現場改善会計論の体系化と精緻化が必要で

あることを指摘された。

最後の第三報告では、片岡洋人氏（明治大学）から、「コスト・マネジメントの新展開：サービス化の原価企画に学ぶ」というタイトルで報告がなされた。片岡氏は伝統的な製造業の原価管理からサービス化戦略に適合するコスト・マネジメントへの展開を整理されたうえで、顧客との長期的な関係性を構築するなかで収益性を作り込む、顧客への価値提案のためのコスト・マネジメントの必要性を主張された。戦略的な焦点はコスト・リーダーシップから差別化へとシフトし、サービスを組み合わせることで差別化を図る価値主導型の原価計算を提唱された。

■大会3日目

午前中に7会場で28の自由論題報告が行われ、午後は、スタディ・グループ最終報告「DDP（仮説指向事業計画）の導入効果に関する研究」（研究代表者 成蹊大学 伊藤克容氏）ならびに産学共同研究グループ最終報告「人を基軸にしたグローバル経営を展開するダイキン工業の管理会計研究」（研究代表者 同志社大学 中川 優氏）が行われた。その後、統一論題討議が行われた。

統一論題討議では、田坂座長のコーディネートのもとで、①日本のコスト・マネジメント研究の現状から一歩踏み出すにはどのような論点があるのか、②将来に向けて、コスト・マネジメントについてどのように研究していけばよいのか、③将来に向けて学会に何が貢献できるのか、という視点からフロアの参加者と活発なディスカッションがなされた。特に②については、研究と実務の関係、コスト・マネジメント研究と隣接領域との関係の捉え方、日本のコスト・マネジメント研究を海外発信するために求められることについて焦点をあてた討論がなされた。参加者からの質疑応答の時間も含め、さまざまな視点から我が国におけるコスト・マネジメントの現状と課題についてディスカッションがなされ、非常に意義深い統一論題討論となった。最後に、田坂座長が、三氏の報告をふまえ、管理会計研究では研究者の得意な方法論を用いることでユニークな研究ができること、コスト・マネジメント研究におけるわが国独自の実務と理論を世界へ発信しなければならないことを確認し、盛況のうちには大会は無事に終了した。

2023年度年次全国大会 開催のご挨拶

大会準備委員長 東北工業大学 川島和浩

日本管理会計学会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、2023年度年次全国大会が、8月28日（月）～30日（水）の日程で、東北工業大学八木山キャンパスにおいて開催されることになりました。先日の5月8日

（月）以降、政府の対応として、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症に変更されました。これに伴い、東北工業大学においては、マスクの着用は個人の判断を尊重することとし、通常の学校運営・勤務体制に戻したところです。新型コロナウイルス感染症は完全に収束したとは言えませんが、会員の皆様のご理解とご協力を賜りながら、以下にご案内の「日本管理会計学会2023年度年次全国大会スケジュール予定」にもとづき、対面形式による大会開催で準備を進めております。

統一論題のテーマは、「中小企業管理会計の現状と課題」です。また、スタディ・グループ報告および産学共同研究グループ報告が予定されております。さらに、東北・北海道地域での全国大会は2001年に開催された東北大学以来となることから、特別講演会では、地元の七十七銀行の子会社で、七十七ヒューマンデザイン株式会社代表取締役の庄司大志氏のご講演を予定しております。

自由論題報告の募集に際しては、会員の皆様から共同研究19組を含む37組のご応募を頂戴いたしました。8月10日（木）を締切としてフル・ペーパーのご提出をお願い申し上げます。詳細の大会プログラムについては、7月中旬を目途に郵送させていただく予定です。

大会準備委員会一同、万全の準備を進める所存でございます。多くの会員の皆様のご参加を賜りますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。

日本管理会計学会 2023 年度年次全国大会スケジュール予定
会場：東北工業大学八木山キャンパス（仙台市太白区八木山香澄町 35 番 1 号）

【大会 1 日目】

8 月 28 日（月）

14:00～15:20 常務理事会

15:30～16:50 理事会

17:00～18:00 各種委員会

【大会2日目】

8月29日(火)

- 9:00~17:00 受付
- 9:30~10:35 自由論題報告(1) : 報告25分, 質疑5分 ※5会場 最大10報告
- 10:45~11:50 自由論題報告(2) : 報告25分, 質疑5分 ※5会場 最大10報告
- 11:50~12:40 昼食休憩
- 12:40~13:50 会員総会
- 14:00~15:00 特別講演会
ご講演者: 庄司大志氏(七十七ヒューマンデザイン株式会社代表取締役)
「地域金融機関が見た中小企業の軌跡—震災, コロナ, その先へ—」
- 15:10~16:25 スタディ・グループ中間報告 報告25分, 質疑10分
第1報告: 研究代表者 三矢 裕先生(神戸大学大学院)
「クライシス時のマネジメント・コントロール—コロナ禍で管理会計はどのような役割を果たしたのか—」
第2報告: 研究代表者 濱村純平先生(桃山学院大学)
「経営者報酬を利用した経営者の業績評価に関する理論的・実証的研究」
- 16:35~18:15 統一論題報告 解題10分, 報告30分
統一論題テーマ「中小企業管理会計の現状と課題」
ご登壇者: 山口直也先生(青山学院大学) 座長
第1報告: 牧野功樹先生(拓殖大学)
「中小企業における管理会計導入による経済的帰結」
第2報告: 飛田 努先生(福岡大学)
「中小企業経営者のアントレプレナーシップを発揚する経営管理システムのデザイン試論」
第3報告: 本橋正美先生(明治大学)
「中小企業管理会計の適用基準」
- 18:30~19:50 懇親会(現在調整中)

【大会3日目】

8月30日(水)

- 9:00~11:30 受付
- 9:30~10:35 自由論題報告(3) : 報告25分, 質疑5分 ※5会場 最大10報告
- 10:45~11:50 自由論題報告(4) : 報告25分, 質疑5分 ※5会場 最大10報告
- 11:50~12:40 昼食休憩
- 12:40~13:55 スタディ・グループ最終報告および産学共同研究グループ最終報告 報告25分, 質疑10分
スタディ・グループ最終報告: 研究代表者 横田絵理先生(慶應義塾大学)
「多様化するマネジメント・コントロールの現状整理と展望」
産学共同研究グループ最終報告: 研究代表者 青木章通先生(専修大学)
「サブスクリプションビジネスのモデル化とその評価に関する研究」
- 14:05~15:25 統一論題討論 座長: 山口直也先生, 統一論題ご報告者3名
- 15:30 大会日程終了

学会業務日誌

2022年4月23(土)

▼第1回常務理事会開催(産業能率大学)

▼第1回理事会開催(産業能率大学)

- ◆ 2021年度の事業報告が承認されました。
- ◆ 2022年度の事業計画(案)が承認されました。
- ◆ 選挙管理委員会の設置が承認されました。
- ◆ Web投票による選挙が承認されました。
- ◆ スタディ・グループの会計報告が承認されました。

- ◆ 新入会員4名(正会員3名・準会員1名), 会員種別変更6名(準会員から正会員3名・正会員から準会員1名・正会員から特別会員2名), 退会者9名(正会員8名・特別会員1名)が承認されました。
- ◆ 学会誌の執筆要領改正案が承認されました。
- ◆ 2022年度全国大会準備状況について報告されました。
- ◆ 地方部会の活動状況について報告されました。
- ◆ フォーラム, 企業研究会, リサーチセミナーの活動状況について報告されました。

- ◆ 国際学会参加費の助成について報告されました。
- ◆ スタディ・グループの公募について報告されました。
- ◆ 学会賞候補者の募集について報告されました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況が報告されました。

2022年7月16(土)

▼第2回常務理事会開催（専修大学）

- ◆ 2021年度の収支決算書（案）および監査報告が承認されました。
- ◆ 2022年度の収支予算書（案）が承認されました。
- ◆ 2022年度の事業計画（案）が承認されました。
- ◆ 学会賞（特別賞・功績賞）が承認されました。
- ◆ スタディ・グループ申請書が承認されました。
- ◆ Web投票による選挙に伴う役員選任規定および学会役員選挙実施内規の変更が承認されました。
- ◆ 新入会員17名（正会員7名・準会員10名）、会員種別変更2名（準会員から正会員2名）、退会者3名（正会員2名・準会員1名）が承認されました。
- ◆ 監事の後任が承認されました。
- ◆ 2022年度全国大会準備状況について報告されました。
- ◆ 2023年度全国大会について報告されました。
- ◆ 地方部会、企業研究会の活動状況が報告されました。
- ◆ フォーラム、リサーチセミナーの活動状況について報告されました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況が報告されました。

2022年8月29(月)

▼第3回常務理事会開催（明治大学）

▼第2回理事会開催（明治大学）

- ◆ 2022年度の会員総会次第の進行について確認されました。
- ◆ 2021年度の収支決算書（案）および監査報告が承認されました。
- ◆ 2022年度の収支予算書（案）が承認されました。
- ◆ 学会賞（論文賞・文献賞・奨励賞）が承認されました。
- ◆ 新入会員1名（正会員1名）、未納退会者7名（正会員4名・準会員1名・賛助会員2社）が承認されました。
- ◆ 2022年度国際学会参加費の助成の申請がない旨が報告されました。
- ◆ 2022年度全国大会準備状況について報告されました。
- ◆ 2023年度全国大会について報告されました。
- ◆ 地方部会、企業研究会の活動状況について報告されました。
- ◆ フォーラム、リサーチセミナーの活動状況について報告されました。

- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況について報告されました。
- ◆ 学会創設30周年記念事業について報告されました。

2022年11月12(土)

▼第4回常務理事会開催（北海学園大学）

- ◆ スタディ・グループの会計報告について承認されました。
- ◆ みなし理事会の常務理事選挙がWeb投票で実施されることが承認されました。
- ◆ 2022年度の収支予算書（案）が承認されました。
- ◆ 新入会員5名（正会員2名・準会員3名）、復会1名（準会員1名）会員種別変更1名（準会員から正会員1名）、退会者3名（正会員3名）が承認されました。
- ◆ 地方部会、企業研究会の活動状況について報告されました。
- ◆ フォーラム、リサーチセミナーの活動状況について報告されました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況について報告されました。
- ◆ 学会創設30周年記念事業について報告されました。

2023年4月15(土)

▼第1回常務理事会開催（明治大学）

▼第1回理事会開催（明治大学）

- ◆ 副会長、業務分担および役員が承認されました。
- ◆ 理事会議決による常務理事および理事の選任が承認されました。
- ◆ 2022年度の事業報告が承認されました。
- ◆ 2023年度の方針および事業計画が承認されました。
- ◆ 学会賞審査委員選出が承認されました。
- ◆ 新入会員7名（正会員4名・準会員3名・賛助会員0名）、会員種別変更1名（正会員から特別会員1名）、退会者9名（正会員9名・準会員0名・特別会員0名・賛助会員0名）が承認されました。
- ◆ 産学共同研究およびスタディ・グループの会計報告がなされました。
- ◆ 2023年度第2回国際学会参加費の助成が報告されました。
- ◆ 学会誌『管理会計学』の発行状況が報告されました。
- ◆ 2023年度年次全国大会（東北工業大学）の準備状況について報告されました。
- ◆ 2023年度スタディ・グループの公募について報告されました。
- ◆ 2023年度学会賞候補者募集について報告されました。

会員数の推移

- 2022年度第1回常務理事会（2022.4.23）：新入会員4名（正会員3名・準会員1名），会員種別変更6名（準会員から正会員3名・正会員から準会員1名・正会員から特別会員2名），退会者9名（正会員8名・特別会員1名），会員現員数は683会員（正会員:607名，準会員:55名，賛助会員:10社，特別会員:11名）

- 2022年第2回常務理事会（2022.7.16）：新入会員17名（正会員7名・準会員10名），会員種別変更2名（準会員から正会員2名），退会者3名（正会員2名・準会員1名），会員現員数は697会員（正会員:614名，準会員:62名，賛助会員:10社，特別会員:11名）

- 2022年第3回常務理事会（2022.8.29）：新入会員1名（正会員1名），未納退会者7名（正会員4名・準会員1名・賛助会員2社），会員現員数は691会員（正会員:611名，準会員:61名，賛助会員:8社，特別会員:11名）

- 2022年第4回常務理事会（2022.11.12）：新入会員5名（正会員2名・準会員3名），復会1名（準会員1名）会員種別変更1名（準会員から正会員1名），退会者3名（正会員3名），会員現員数は694会員（正会員:611名，準会員:64名，賛助会員:8社，特別会員:11名）

- 2023年度第1回常務理事会（2023.4.15）：新入会員7名（正会員4名・準会員3名・賛助会員0社），会員種別変更1名（準会員から正会員0名・正会員から準会員0名・正会員から特別会員1名），退会者9名（正会員9名・準会員0名・特別会員0名・賛助会員0名），会員現員数は693名（正会員:605名，準会員:67名，賛助会員:8社，特別会員:13名）

事務局からのお知らせ

- 学会事務局が以下の通り国際文献社内に移転したのでお知らせいたします。なお、jama-info@sitejama.jpのメールアドレス宛でのeメールは、jama-post@as.bunken.co.jpに自動的に転送されます。
- フォーラムやリサーチセミナーの案内等，会員宛の連絡にeメールを活用したいと考えています。メールアドレスを未登録の方は，学会事務局までご連絡ください。また，すでに登録されている方で，案内等が届かない，あるいは，メールアドレスに変更があった場合には，速やかに学会事務局までご連絡ください。

日本管理会計学会広報 責任者：内山 哲彦
メンバー：奥 倫陽，原 慎之介
発行機関：日本管理会計学会
〈本部事務局〉 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5
アカデミーセンター (株)国際文献社内
日本管理会計学会 事務局
【ホームページURL】 <http://sitejama.jp/>
【E-mail】 jama-post@as.bunken.co.jp
【TEL】 03-6824-9371 【FAX】 03-5227-8631